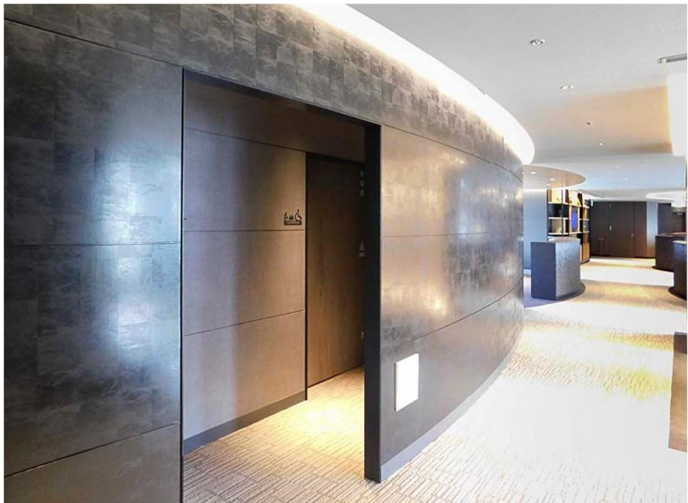


外観



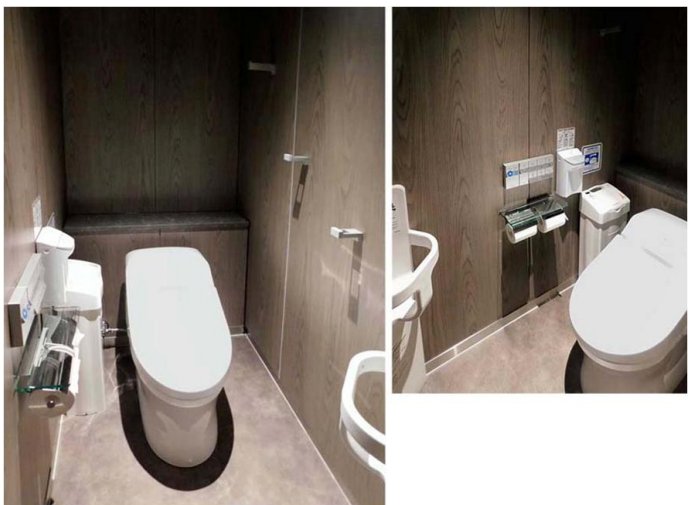
空港ターミナルビルと一体化したセントレアホテルは、空港チェックインカウンターまで130mという至近距離で、段差のないバリアフリーで結ばれる。利便性・快適性に優れた、全381室のエアポートホテル。

トイレ入口



ゲストラウンジ横に位置するトイレは、ラウンジから入口が直接見えないように配慮されている。

男性・女性トイレ 大便器ブース



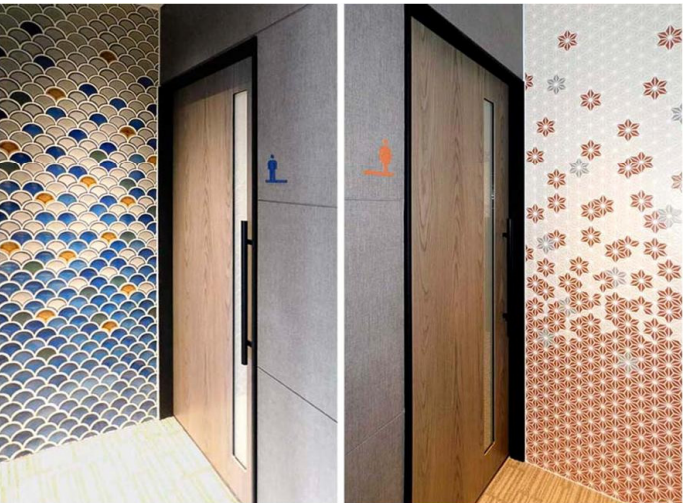
落ち着いた色合いの木目調仕上げ材を用いた大便器ブース。旅行者の手荷物がしっかり置けるよう、大便器後方のライニングスペースや壁面のフックなど、きめ細やかな配慮がされている。

ゲストラウンジ 内観



日本の文化・風土を取り入れ、現代風にアレンジされた内装。和の魅力を空間で感じ、お客様に「くつろいでもらいたい」という想いを反映している。

トイレ入口



トイレ入口前の壁には、和の趣を湛えるタイルで仕上げられている。男性トイレは波。女性トイレは桜の和柄をモチーフにしている。

男性トイレ 小便器コーナー



小便器の間には間仕切り壁を設け、隣を気にせずにご利用できるよう配慮がされている。

男性トイレ 洗面コーナー



(写真左)カウンター下には、手荷物が置ける棚が設けられている。(写真右)男性にも身だしなみのためのスペースをという思いから、洗面コーナーの隣に専用のスタイリングコーナーを設置している。

多機能トイレ



車いす利用者だけでなく、幅広い利用者を想定し、コンパクトオストメイトパックや幼児用大便器などの設備を充実させている。

建築概要

名称	中部国際空港セントレアホテル ロビーフロア
所在地	愛知県常滑市セントレア1丁目1
施主	名古屋鉄道株式会社
設計・施工	矢作建設工業株式会社
インテリア デザイン	株式会社日建スペースデザイン
竣工年月	(改修)2018年9月

女性トイレ スタイリングコーナー



洗面カウンターの横に設けられたスタイリングコーナー。顔映りの良い照明の採用や、化粧鏡により近づいてお化粧直しができるよう洗面よりも壁面を前に出すなど、きめ細やかな配慮がされている。

改修前



新棟への通路を確保するため、トイレの移設が必要になり、内装や水まわり設備を時代に合わせた最新の商品や機能性のあるものに一新した。

水まわりの特長

＜改修の経緯＞
「中部国際空港セントレアホテル」は、株式会社名鉄グランドホテルが運営するエアポートホテルであり、中部国際空港開港にあわせ、2005年に開業された。“旅のはじめに高鳴りを。旅のおわりに安らぎを。”をコンセプトに、空港に直結した利便性と快適性を兼ね備えるユニバーサル設計が特色である。2018年10月、本棟に隣接して新棟「Pacific Side」をオープン、あわせて本棟の宴会場であった場所をゲストラウンジとして改修。「景色・伝統・文化」をテーマに、モダンな茶室空間やビジネスコーナーなど、お客様がくつろげるリビング空間を設けている。この工事に伴い、ラウンジに隣接したロビーフロアのトイレ改修も実施。落ち着いた雰囲気と、上質なトイレ空間となっている。
＜トイレの特長＞
ロビーフロアのトイレは、同フロアにあるレストランの利用客も使用するため、男女トイレともに、ゆっくりと身づくろいができるスタイリングコーナーを設置。大きな荷物を持ったお客様が利用しやすいようフックを設置するなど、落ち着いた空間には、快適に使える設備が整えられている。また、多機能トイレには、車いす利用者やお子様連れ、オストメイトなど、幅広い利用者に対応できる設備を完備している。